

令和6年度 第2回 地域包括ケア推進会議

令和7年3月17日(月) 18:30~20:00

次 第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組みについて
 - (2) 中地域ケア会議の取組みについて
 - (3) 福祉介護人材確保に向けた検討部会の取組みについて
- 4 その他
- 5 閉会



地域包括ケア（植木鉢の図）と現在の取組みの関係性

6.保健・福祉

第10次いわき市高齢者
保健福祉計画(R6~R8)

4・5.医療と介護の連携

退院調整
ルール

ACP
普及啓発

在宅医療推進のための
多職種研修会

認知症初集中支援チーム

2.すまい

ア) 安心して暮らす

▶入居・入所・葬送等支援事業
※再掲

イ) 住み慣れた場所で暮らす

▶小さな拠点おおか

1.本人の選択 と 本人・家族の心構え

健康いきいき塾
小川寺子屋など

つどいの場への
専門職派遣
出前講座

認サポ養成講座
チームオレンジ
スローショッピング

エンディングノート
入居・入所・葬送等支援事業
ACP普及啓発※再掲

いごく
ミーティング

情報発信
Facebook/紙
ポータルサイト

3.介護予防・生活支援

- ▶つどいの場
 - ・つどいの場
 - ・シルバーリハビリ体操
- ▶住民支え合い活動
- ▶いきいきシニアボラン
ティアポイント事業
- ▶さががけ！男の料理塾
- ▶介護予防ケアマネジメン
ト支援会議
 - ・アドバイスまとめ集
- ▶地域リハビリテーション
活動支援事業



1. 本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)



1.本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)

認知症サポーターの活動促進

認知症の人ができる限り地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み「チームオレンジ」を構築し、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する。

【現在】 サポーター養成状況 延べ**29,488**人(平成18年度～令和6年12月末)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年12月末
養成人数(人)	704	923	1,118	1,161
(企業)	(45)	(100)	(76)	(246)
(教育機関)	(345)	(423)	(743)	(403)

ステップアップ講座(認知症サポーター養成講座を修了した方が復習も兼ねて学習する機会であり、座学だけでなくサポーター同士の討議・演習も含めた、より実際の活動につなげるための講座)を平・小名浜地区をモデルに開催した。

- ・平地区 「チームブルー」 19名 (令和5年8月設置)
- ・小名浜地区 「ふらっと大原」 20名 (令和6年11月設置)

スローショッピングを毎月開催(平地区)

1.本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)

スローショッピングとは？

ものわすれや認知症がある方、障がいを持つ方など以外でも、普段の買い物に不便を抱える方、レジの時に不安のある方が、どなたでも、自分のペースでゆっくり買い物を楽しんでいただくための取り組みです。

【日付】 毎月第1水曜日

【時間】 13時30分～15時30分

【場所】 マルトSC草野店



【内容】 ①買い物の付き添い

13時30分～15時30分

②ゆっくりお会計のできるレジの設置

14時00分～15時00分

③交流・相談の場の設置

13時30分～15時30分

課題と今後の方向性

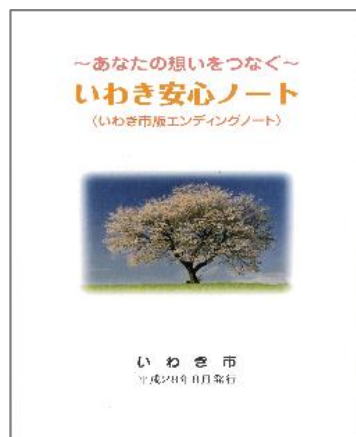
地区の回覧板、近くの介護事業所、地区の民生委員、平地区中地域ケア会議等で周知するも、参加者が増えないため、ケアマネや病院等への周知を拡大し、引き続き啓発に努めていく。

また、今後は、平地区の取組みを検証し、他地域での展開につなげていく。

エンディングノートの普及啓発

1. 本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)

地区保健福祉センター又は地域包括支援センター窓口で配布
また、在宅医療出前講座、つどいの場等で活用



エンディングノート作成支援

エンディングノートの作成機会を設け、一人ひとりが自らの今後を考え意思表示できる機会の確保の実現を目指す



わたしの想いをつなぐノート活用に向けた取組み ※ACPIについて後述

令和5年度市役所出前講座 新規メニュー「在宅医療・介護について」を開設し、わたしの想いをつなぐノート等を活用した周知啓発に努める

入居・入所・葬送等支援事業

1. 本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)

「アパートや福祉施設を利用したいけれど保証人(身元引受人)がいない」、「老後の生活や万が一の時の心配」という方々に、安心して暮らせるようNPO法人地域福祉ネットワークいわきが保証人(身元引受人)となる事業

また、「将来の自分のお葬式やお墓のことが心配」という方に、希望を伺い、葬祭事業者や墓地管理者との生前契約の仲介など、死亡時の生前意思決定支援を行っている。令和3年度より、市が運営費の一部を補助。

◆契約件数・履行件数の推移

【R7.1末現在】

契約件数		R 元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	合計
身元保証	入居	36	112	113	124	168	136	689
	入所	11	19	9	5	14	15	73
葬送(生前葬儀契約等)		1	4	13	27	23	19	87
その他(入院等)		0	0	6	11	2	33	52
合計		48	135	141	167	207	203	901

葬送支援履行件数	—	6	11	9	13	39
----------	---	---	----	---	----	----

1. 本人の選択と本人・家族の心構え
(地域共生社会)

◆ 会員数・寄付等

○ 会員数

(令和6年度)

法人種別	会員数	法人種別	会員数
社会福祉法人	16	民間企業	11
NPO法人	2	宗教法人	2
医療法人	6	その他	1
計			38

※会費 10万円以上

○ 寄付受納

(令和5年度)

件数		金額
企業	2件	6,000円
医療法人	2件	30,000円
個人	6件	439,620円
計	10件	475,620円

常勤職員3名体制。契約件数の増加に伴い、葬送執行件数も増加。
 関連事業所や専門職を中心に認知と支援が広がっているが、低廉な利用
 料の維持、かつ安定的な事業運営のためには、更なる資金確保が必要
 ⇒ 令和7年度より、運営費に対する市補助金を増額する方針

“ぷち”いごくミーティング2024 Be A Supporter



1. 本人の選択と本人・家族の心構え (地域共生社会)

令和6年9月19日(木) 来場者約180人

(1)入棺体験 (2)地域づくりサポーターの紹介 (3)ACP普及啓発 など

いわきFCの選手・サポーター向け認知症サポーター養成講座の
(主催 株式会社いわきスポーツクラブ)の実施に併せて開催



思ったより落ち着く #棺桶入ってみた #いわきFC



紙のいごくVol.15の特集は「余白」
いわきFC認知症サポーター養成講座についても掲載予定

2. すまいと住まい方



3.介護予防・生活支援



3.介護予防・生活支援

つどいの場

	R3	R4	R5	R6 ※2月末現在
つどいの場	409ヶ所	387ヶ所	<u>368ヶ所</u>	<u>366ヶ所</u>

参加実人数 7,847人 6,871人 6,276人 6,068人

補助金活用団体 R5:267団体
 R6:259団体
専門職講師派遣 R5:283件
 R6:227件

高齢者人口 98,583人 (R7.2月末時点)
 に対し 6.15%

国目標: 令和7年(2025年)度末までに参加率 8%

引き続き、参加者の拡大に向け、支援を行う

3.介護予防・生活支援

住民支え合い活動づくり事業（第3層協議体）

	R 4	R 5	R 6.12末
登録地区数	48地区	51地区	52地区
登録サポーター数	719人	726人	692人

R6新規立ち上げ地区

平・愛谷町区会、勿来・酒井ともの会（1区、2区、3区）

主な活動

声掛け・見守り、ゴミ出し、庭木の手入れ・草引き、買い物・・・

地域まるごと支え合い

3.介護予防・生活支援



サポーター連絡会(毎月開催)



クリスマスお弁当配布
(磐城桜ヶ丘高校の生徒と訪問)

城山結いの会

- ・平成27年度から活動
- ・登録サポーター 18名
- ・主な活動
見守り訪問、庭木の剪定
毎月の広報誌の発行
磐城桜ヶ丘高校生徒との交流



広報誌

- ・サポーター、訪問対象者
それぞれが見守る側であり、
見守られる側でもある
- ・高齢の方、障がいのある方、
子ども…誰もが地域の構成員

いつもどこかで
お互いを気にかけてあう地域

⇒地域共生へ

いきいきシニアボランティアポイント事業

3.介護予防・生活支援

生きがいづくり、介護予防等を目的として、65歳以上の方を対象に、市が指定するボランティア活動に対してポイントを付与し、ポイントに応じて商品と交換する事業

【各年度実績】

各年度	参加人数	商品還元者数	商品還元率	受入機関数
R3年度	946名	459名	48.5%	153箇所
R4年度	933名	514名	55.1%	139箇所
R5年度	1,037名	631名	60.8%	148箇所
R6年度 ※R7.2月末現在	911名	84名	9.2%	152箇所

交換した商品もご自身の想いで自由に

○頑張った自分へのご褒美に

○ボランティアで出会った仲間と一緒に

○遊びに来た孫と一緒に etc



【R5年度商品交換数】 ※全商品38品目中 上位10品目

順位	内容	提供事業所	Pt数	交換数
1	海産物詰合せ	いわき市観光物産センター	20	77
2	しあわせみそセット	障がい者福祉連絡協議会	10	74
3	いわき・ら・ら・ミュウ商品券 (5,000円分)	いわき市観光物産センター	50	54
4	いわきライキ (5kg×2袋)	いわき観光まちづくりビューロー	40	52
5	焼き菓子セット	障がい者福祉連絡協議会	10	49
6	あとりえ北山お菓子セット	障がい者福祉連絡協議会	10	45
7	いわきライキ (5kg×1袋)	いわき観光まちづくりビューロー	20	43
8	常磐ものセットA	いわき観光まちづくりビューロー	50	42
9	ラスクセット	障がい者福祉連絡協議会	10	35
10	ビアンダ2本セット	合資会社 浜田屋	10	27

商品イメージ



3.介護予防・生活支援

さがけ！男の料理塾

手軽に作れる料理や食についての知識を実習や講義を通して学ぶことで、調理のみならず、献立作成、栄養バランス、材料購入、調理手順等のポイントを習得することを目的として、低栄養リスクの高い高齢男性を対象に実施

各年度	開催回数（実績）	参加人数
令和4年度	2回	16名
令和5年度	3回	26名
令和6年度 (R7.2月末現在)	2回	20名



介護予防ケアマネジメント支援会議

高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、自立支援に資するケアプラン作成と支援を行うため、多職種からの専門的な助言を活かしたケアマネジメントを実施

アドバイザー職種

医師、薬剤師、OT、PT、ST、歯科衛生士、管理栄養士、地域包括支援センター

【目的】

自立支援・介護予防の観点を踏まえて、
「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」
「高齢者のQOLの向上」を目指す。

【効果】

高齢者の生活の質の向上に加え、

- (1) 専門職としてのスキルアップ
- (2) ケアマネジメントやケアの質の向上
- (3) 参加者によるネットワークの構築

直近3年分の開催実績

- 令和4年度 会議開催数:28回 検討件数:50ケース
- 令和5年度 会議開催数:17回 検討件数:26ケース
- 令和6年度(2月末現在)
会議開催数:13回 検討件数:22ケース

3.介護予防・生活支援

介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイスまとめ集

これまでの介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイス内容や提供資料から、各項目におけるアセスメントのポイントや、より質の高いきめ細かなサービス提供に繋がる助言を取りまとめた「助言集」を各専門職団体の協力のもと、令和5年2月に300部作成し、地域包括支援センター及び通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所等に配布

【アドバイスまとめ集(抜粋)】

いわき市

介護予防ケアマネジメント支援会議における

アドバイスまとめ集

(平成29年度～令和3年度)



令和5年2月

④ 歯の清掃

- 歯のある人は歯ブラシを用いた清掃が基本です。
- 歯ブラシの毛は柔らかいもの、ヘッドは小さいものを選びましょう。
- 歯ブラシは、鉛筆を持つように軽く持ち、小刻みに動かします。
- 歯がなくても食べていなくても、口腔ケアをします。

<注意点>
歯磨き後は、歯に付着していた細菌が、一時的に口の中に広がるので、うがいをするか、うがいができない場合は拭き取るなどして、汚れをしっかりと取り除きます。

【歯垢のつきやすいところ】



歯ブラシを使って舌を刺激



歯ブラシで舌をトントントンして、感覚を刺激します。

歯ブラシで舌を下に押さえつけます。舌はその力に反発するので筋力の増強になります。スプーンでもよいです。

日常生活の中で「したい・できるようにになりたい」という生活行為の状況を把握し、「心身機能」「身体構造」「活動」「参加」「環境」などの項目に分けて妨げている要因を考えます。同時にその要因を軽減又は補強している現状の能力(強み)についても考え、どのようにすればうまくできるようになるのかを考えます。目標は動作能力の獲得ばかりではありません。動作獲得が困難な場合などは、その人らしさの価値観を尊重すると実現可能な目標設定につながりやすくなります。



IADLの低下を予防するためには！

利用者のADL・IADLを把握し
できることを見極めた
手助けをしすぎない支援をする

過度な介護をしてしまうと、自分のことを自分で行う機会とモチベーションを奪ってしまいます。
日常生活のお世話をすることにより、能力が衰え、以前できていたことまでできなくなることもあります。

例) ふらつき・下肢筋力低下だから車椅子ではなく、歩行補助器具を使うなど歩く支援を考える
福祉用具の活用: シルバーカーや杖、ポータブルトイレや手すり
自立した生活を維持することを目指す
自分の力で行動することができると、外出のモチベーションも高まる

例) 住宅リフォーム
自治体独自の補助制度も利用できる可能性があるのを確認する
例) デュアルタスク、2つのことを同時に行う「ながら作業」を意識することが非常に有意義
買い物の際、歩きながら献立を考える

**「できる」と「している」
「できない」と「していない」
【能力】なのか【行為】なのか
確認することが重要**

地域リハビリテーション活動支援事業

介護事業所の困りごと

- PT、OT、ST、歯科衛生士や管理栄養士等の確保が困難
- 身体状況に加えて、口腔、栄養に関する包括的なアセスメントが十分にできない
- 利用者個々の状況に応じた訓練、セルフトレーニングの指示ができない
- 看護師等が器具を使用した画一的な身体機能訓練を実施している
- 知識や経験が少ない
- 利用者への効果的な支援ができていない
- 介護事業所とリハビリテーション専門職等のネットワークが弱い
- 小規模事業所が多く、独自の研修会やリハ専門職から指導を受ける機会がない

このような課題を解決し、地域における介護予防の取り組みの機能強化を図るため、
リハビリテーション専門職等の関与を促進することを目的とする

- ①リハビリ専門職等からアセスメントや機能訓練などの知識を学ぶことのできる
機会の創出
- ②事業所ごとの困りごとに対して、市からリハビリ専門職を派遣し、 技術的な
助言を行うことのできるサポート体制の構築

地域リハビリテーション活動支援事業概要

● 基礎講座

- 目的：リハビリ専門職等からアセスメントや機能訓練などの知識を学ぶ
- 対象：居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所
- 内容：リハビリ等に関する基礎知識
- 開催方法：講座形式（対面&オンライン）
- 開催回数：1回、3日間/半期
- ※1日につき、2職種が30～40分（所要時間：1時間半）

● 個別サポート

- 目的：事業所ごとの困りごとに対して、技術的な助言を行う
- 対象：居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所
- 内容：個別サポートメニュー表から選択または個別具体のケース
- 開催方法：市からリハビリ専門職を派遣（訪問orオンライン）
- 開催回数：1事業所につき2回/年

4・5.医療と介護の連携



いわき医療圏退院調整ルール

病院とケアマネが情報共有を図り、退院後の在宅生活へ円滑に移行できるように連絡・調整を行う。(平成29年4月から運用開始)



退院調整率（退院時に病院からケアマネジャーに連絡があった割合）

R2	R3	R4	R5	R6
88.8%	90%	86.1%	83.6%	88.4%

新型コロナウイルス感染症での入院が影響

【運用状況アンケート調査】

- ・毎年9月実施（7月～8月入院分）

【運用評価会議の開催】

- ・年1回
- ・参加者：病院（ソーシャルワーカー等）、居宅介護支援センター
包括支援センター

4・5.医療と介護の連携

在宅医療推進のための多職種研修会

在宅医療と介護サービスの一体的な提供を行うためには、医療と介護関係者が顔の見える関係性を構築し、お互いの職種の理解を深め、連携することが重要であることから、市医師会と共同で研修会を実施。



【受講対象者】

- ① 医師会等医療・介護関係団体所属会員
- ② 上記関係団体に所属されていない医療・介護職等従事者

【開催内容】



	R5		R6	
内 容	講義「人生の最終段階における意思決定ACPの実際」 かしま病院長 石井 敦氏 演習「慢性閉塞性肺疾患事例の担当者会議（人生会議）」	講義「人生の最終段階における意思決定ACPの実際」 かしま病院長 石井 敦氏 演習「悪性疾患事例の担当者会議（人生会議）」	講義1「在宅（施設）における救急要請について」 いわき市消防本部 救急係長 太田 義幸氏 講義2「在宅の心不全患者における急変時対応について」 山内クリニック 副院長 山内 宏之氏 交流会	講義1「がん患者への緩和ケア的アプローチ」 ケアフリー訪問看護ステーション 所長 上村 博子氏 講義2「在宅（施設）療養者の看取り期の対応」 ～旅立ちのときを支える～ あんざいクリニック 院長 安斎 光昭氏 交流会
参加者	会場 46人 オンライン 76人	会場 46人 オンライン 42人	会場 45人 オンライン 59人	会場 52人 オンライン 39人

4・5.医療と介護の連携

ACP（人生会議）普及啓発

【令和6年度実施内容】

項 目	内 容
市役所出前講座	「在宅医療・介護について」 6回 68人
お出かけ人生会議	「もしものときのために人生会議」等 2回 23人
ACPブース設置	➢ いわき市医師会主催 市民公開講座 ➢ 病院協議会主催 市民フォーラム ➢ 地域包括ケア推進課主催 いごくミーティング 等
市民向け広報媒体等	➢ パネル・チラシ作成：わたらしい「終わり方」を考える ➢ 冊子作成：在宅医療をお考えの方へ ➢ わたしの想いをつなぐノート増刷 ➢ 広報いわき2月号への掲載



ACP: advance:前もって care:医療やケアについて planning:計画すること
人生の最終段階の治療、療養について、患者・家族と医療従事者等があらかじめ話し合うこと。

認知症初期集中支援チーム

認知症専門医や認知症サポート医と専門職で構成される「チーム」が、認知症の初期段階で包括的かつ集中的に支援を行い、自立生活のサポートを行うことを目的としている。

いわき市では平成28年6月に設置、現在は医師をはじめとする 39名 のチーム員が地区担当制で活動している。

【対象者】

40歳以上の認知症が疑われる在宅の人で

- (1)医療・介護サービスを受けていない、
または中断している方
- (2)医療・介護サービスを利用しているが、
BPSDにより対応に苦慮しているケース

【チームの構成】

医 師	16名
薬剤師	8名
看護師	3名
作業療法士	5名
包括支援センター	7名

39名

認知症初期集中支援チームの状況

4・5.医療と介護の連携

<設置から現在までの活動実績>

	新規	終了	訪問回数	会議開催数 (うち地区会議)
平成28年度	4	4	15	7
平成29年度	13	13	44	10 (1)
平成30年度	22	22	76	21 (11)
令和元年度	18	18	106	21 (12)
令和2年度	9	9	64	20 (12)
令和3年度	13	13	114	22 (14)
令和4年度	10	10	80	19 (15)
令和5年度	4	3	48	7 (3)
令和6年度 (R7.2月末時点)	1	0	19	7 (3)



<支援終了時の状況>

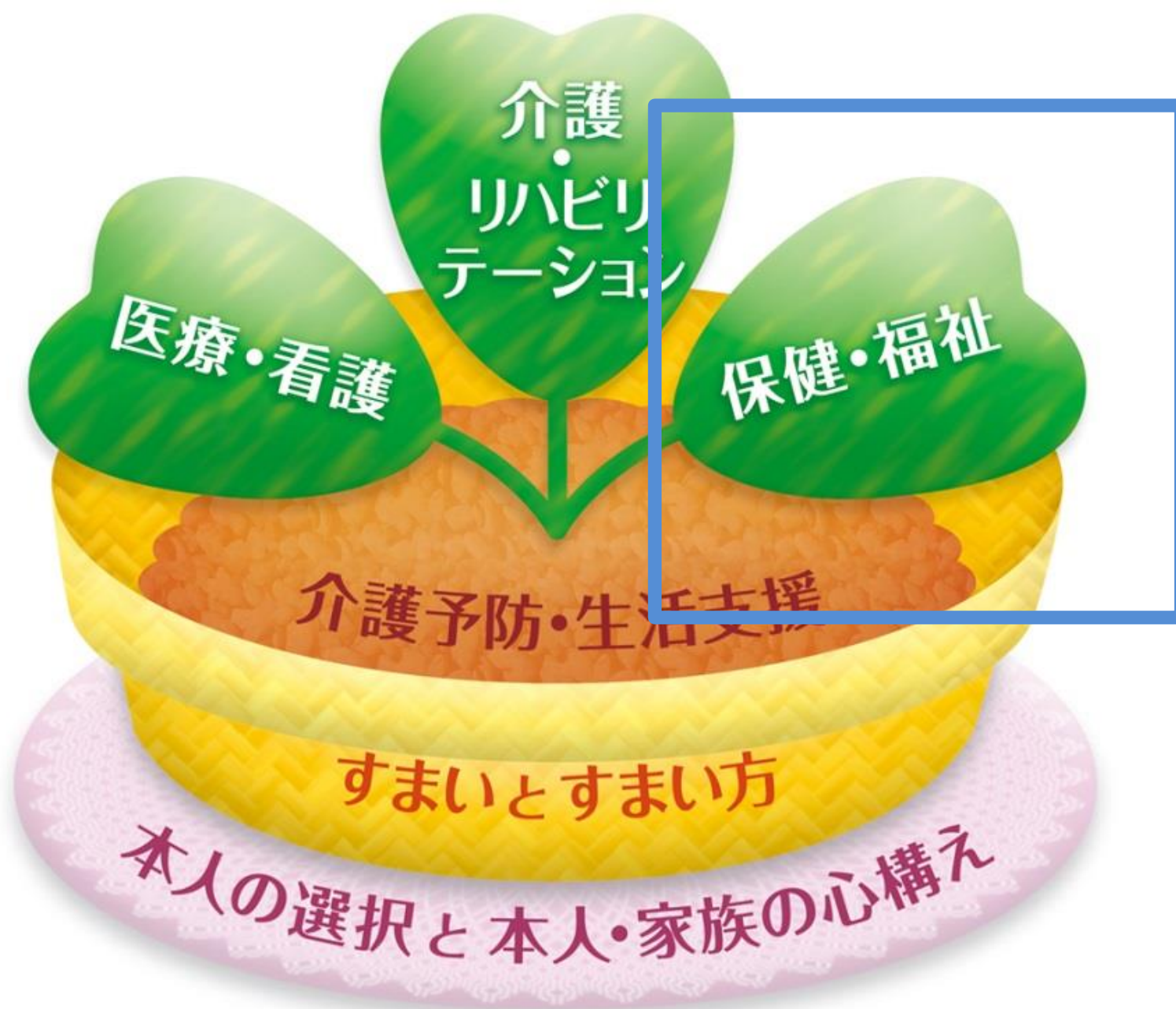
	件数
在宅	67
入院	9
入所	6
死亡	8
転出	2
計	92

◆約7割が在宅生活を継続できている

<今後の課題と方向性>

包括支援センターは、潜在的なケースを救い上げるため、多くの普及・啓発活動を実施している。これにより救い上げられたケースの多くは、チームを介さなくても対応することができているが、一方で、重症化してから発見されたケースが、初期集中に上げられているため、重症化する前に発見する、さらなる方法や視点について今後も高齢者生活安全部会で検討していく。

6.保健・福祉



第10次市高齢者保健福祉計画（概要）

- 計画期間（令和6年度～令和8年度）
- 基本理念
「ひとりひとりが健康でいきいきと安心して自分らしく暮らせるまち いわき」
- ビジョン
 - (1) 健康寿命の延伸
 - ・高齢者自らの健康維持・増進への意識づくりを推進
 - ・生きがいを持ち、その能力を活かし、必要なサービスを利用しながら地域で暮らし続けられる
 - (2) いわき市地域包括ケアシステムの深化・推進
 - ・医療・介護・介護予防・住まい・生活支援の確保により地域全体で支え合う仕組みづくり
 - ・地域包括ケアシステムを支える人材の確保や介護現場における生産性の向上

地域共生社会まちづくり事業

地域共生社会の実現に向けて、高齢者、障がい者、子ども等の福祉増進に資するための取組みのうち、地域課題に対応することを目的に、地域住民等が主体となった今後の模範となる活動を選定し支援する。

【令和5年度採択事業】

- 事業名：つながる・あつまる・コミュカフェおおか
- 運営団体：特定非営利活動法人 小さな拠点おおか
- 場 所：川前町下桶売(新川前支所から約1km)
- 内 容：地域資源を活用した料理等の提供ができるコミュニティカフェ(週1~2回)を開設し、誰もが集える地域の居場所づくりを通じた住民のフレイル予防や健康の増進、コミュニティの活性化を図る。
気軽に専門職に相談できる場として、福祉的課題のある住民を適切な機関に繋げる
川前町で専門職が住民対応する際のワークスペースを提供
- 事業：専門職・ボランティアによる
健康アップ相談▶医療・福祉等専門職を招いた相談会・勉強会
元気アップ塾 ▶シルリハ・脳トレなど
- 開放日：※カレンダー要確認
毎週火・木曜日(月1回金曜日)10時~14時くらい
- 採択後
自家用有償旅客運送の実施、オレンジカフェ開設、
市移動図書館ステーション設置 など



※facebookやポータルサイト等での情報発信を行うとともに、今後についても、引き続き、市内の取組みを選定し支援していく。

▶3月25日より令和7年度分の応募を受付

これまでの採択事業

採択事業		運営団体	年度
	いつだれ kitchen (地域共生社会まちづくりモデル事業)	特定非営利法人 布紗	H30
	にぎらないおにぎりカフェ ふくろう	株式会社ロングリバー	R3
	中山間地域対応型キッチンカー	i-step株式会社	R3
	あすび・おむすび・えんむすび事業	NPO法人 明日飛子ども自立の里	R4
	つながる・あつまる・コミュカフェおおか	特定非営利活動法人 小さな拠点おおか	R5
	いわき共生シネマフェスティバル	いわき共生シネマフェスティバル 実行委員会	R6

(2)中地域ケア会議の取組みについて

平地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【背景】

- 本市において人口が最も多い地区
- いわき駅を中心にマンション開発も進み、地域コミュニティの希薄化が進行。
- 圏域が広大で市街地、住宅地、農耕地と地域性が多様なため、課題也多岐にわたる。

【課題】

- 地域住民の結びつきの低下
- 外出困難な高齢者の増加

2.これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

住み慣れた地域での生活を続けていくため、移動手段の仕組み作りについて模索。

令和6年度は、地区内の民生委員の協力により、住民を対象としたアンケート調査を実施。

回答から方部別の地域特性の把握を試みた。

3.今後の目指す姿

【目指す姿】

平地区に住んでいる高齢者が買い物等をはじめとする移動支援サービスを身近に利用できるような仕組みづくりを、民間で取り組んでいる既存資源を有効活用して構築することで、地域包括ケアシステムにおける「生活支援」の充実化を図り、もって高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域において安心・安全な生活ができる環境を整えることを目指したい。

4.令和7年度の取り組み

【令和7年度の取り組み(予定)】

アンケート結果を踏まえ、その詳細な分析を進めるとともに、小地域レベルでの具体的な取り組みなどをふまえながら、事業の横展開や深化を促す方法を模索する。

平 地区中地域ケア会議の取り組み

★令和6年度第1回会議の様子



小名浜地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

・湘南台は1990年代に造成した住宅地であり、高齢者のみ世帯、一人暮らし世帯が増加



・当事者も近所の支援者も高齢で朝のゴミ出しが大変、ヘルパーの人材不足により早朝のサービス提供は難しい

2.これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

・資源循環推進課同行で先進地視察
・湘南台において小地域ケア会議実施
ゴミ出し支援の負担軽減を図るため、サポートシールを貼ることで、ゴミ出しの時間拡大（前日の午後から）のモデル事業実施の方針決定



・対象となるゴミ集積場を利用する住民宅を訪問し、事業概要を説明、また湘南台地区にモデル事業を回覧で周知



・湘南台一部集積場でモデル事業実施（R7.2.5～R7.2.28）

3.今後の目指す姿

【目指す姿】

○ゴミ出しを行う当事者や支援者の負担軽減を図り、「高齢になっても誰もが住みやすい街づくり」を目指す

4.令和7年度 of 取り組み

【令和7年度 of 取り組み（予定）】

●モデル事業「ゴミ出しサポート事業」について、課題の整理
（恒常的な実施に向け資源循環推進課と協議）



●住民の同意が得られれば湘南台全域での「ゴミ出しサポート事業」の拡大



●小名浜管内での事業対象地区の拡大

小名浜地区中地域ケア会議の取り組み

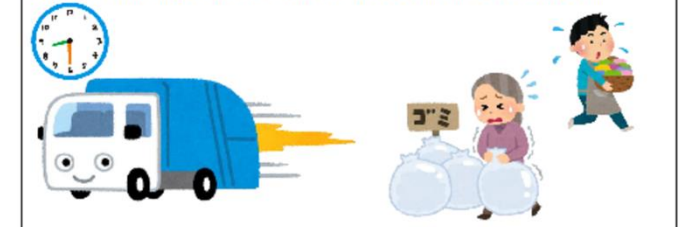
ゴミ出しサポート事業 モデル



高齢者ゴミ出しサポート事業（モデル事業）を実施します

高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために、日々のゴミ出しが支障になるケースがあります。本事業は、支援が必要な高齢者に限り、ゴミ出しできる時間を広げることで、高齢者本人やその支援者が余裕をもってゴミを出すことができるようにするものです。

○収集日の8時30分までにゴミを出すことが難しい。朝は支援者も忙しい。



○収集日前日の午後ならば支援者がゴミを代わりに出すことができる。



実施期間 令和7年2月5日～2月28日

実施場所 湘南台 第18集積場（モデル事業のため集積場を限定して実施します。）

対象者 ゴミ出しに支援を必要とする高齢者（一人暮らし、高齢者のみの世帯等）

実施方法 支援が必要な高齢者のゴミ出しを、収集日前日の午後から認めることで、本人やその支援者が余裕をもってゴミを出すことができます。ゴミ袋にはシールを張り付け、一般のゴミと区分します。



問い合わせ先
小名浜地区中地域ケア会議事務局
（小名浜地区保健福祉センター）
☎ 0246-54-2111（内線 5166）

小名浜地区中地域ケア会議・いわき市

勿来・田人地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

近年の急速な高齢化の進展のもと、地域における住民活動等が、将来的な担い手不足が懸念される状況にある。

既存の住民活動の担い手が高齢化する一方で、新たな継承者の不足などもあり、「つどいの場」や「住民支え合い活動」などの地域活動へ参加に関し、一部に停滞や縮小傾向も見られ始めている。

2.これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

健康長寿を維持するフレイル予防の取組の中で、特に「つどいの場」について、男性の参加が低調という課題があった。男性の主体的な活動を促す方策として、地区社協と連携し、男性のみを対象としたワークショップを実施。その結果、参加者による、新たな「つどいの場」の創設が図られ、自主的な活動が行われることにつながった。

3.今後の目指す姿

【目指す姿】

高齢者自身が自分の生活を主体的に選び生活の質を高めていけるよう、地域での活動に積極的に参加できる機会や場の増強を図ることで、高齢者が孤立せずに生き生きと暮らせるような地域を築いていく。

そのために、次のような取り組みを行っていく。

- ・ 既存の「つどいの場」や「住民支え合い活動」などの継承と活性化を促す。

- ・ 地域住民が主体となって効果的なフレイル予防や介護予防活動ができるよう支援する。

- ・ 協力体制を多様な層に広げるため、柔軟な活動形態や魅力的な情報発信の在り方について検討する。

こうした取り組みにより、全ての世代が共に支え合い、安心して暮らし続けることができる地域社会の構築を目指していきたい。

4.令和7年度の取組み

【令和7年度の取組み(予定)】

- ・ 地域活動の活性化
「つどいの場」や「住民支え合い活動」等の既存の事業について、地域における活動の実態を引き続き精査し、更なる活性化策を図っていく。

- ・ フレイル予防の充実
「介護予防・日常生活支援総合事業」などのあり方も含め、地域において、様々な主体がそれぞれの立場から参加できる幅広いフレイル予防・介護予防活動が展開されるように働きかけていく。

- ・ 多層的な協力体制の促進
地域支援の持続可能性を高めていくため、世代を超えた協力体制について検討していく。特に若い世代が地域活動に関心を持てるよう、多様なリソースを活用した柔軟な活動を促してしていくほか、必要に応じSNS等を活用した情報発信等の在り方についても検討していく。

勿来・田人地区中地域ケア会議の取り組み



男性が主体的に参加できる「つどいの場」の創設を目的としたワークショップを開催

勿来地区社協が毎年度実施している「男の料理教室」の参加者に働きかけ、「続 男の料理教室 新たなる挑戦!」と題しワークショップを開催しました。(6~8月に毎月1回)

「男性が高い関心と意欲を持ち、自律的・継続的に実行できる新たな社会参加活動を皆で考え、一緒に創っていきましょう」というテーマで進めたところ、参加者有志16名により、新たな「つどいの場」として、「勿来おきらく会」が結成されました。「勿来おきらく会」では、自分たちが興味を持てるテーマを自ら話し合い、毎月1回集まって、主体的で探求的な活動を進めています。

特徴的な活動としては、「郷土のことをもっと知りたい」という会員の声をもとに、講師を招いて郷土の歴史を学んだ後、「郷土歴史ウォーキング」と称し、フレイル予防を兼ねたまち歩きを行っています。



常磐・遠野地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

①介護予防について

要介護認定申請件数が年々増加しており、要支援の認定者数も増加している。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延から、地域内で集まる「場」が減少してしまった。

②買い物難民について

常磐湯本町八仙・浅貝地区において、地域内にあったスーパーの閉店に伴い、買い物に困る高齢者が発生した。

2.これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

①「常磐・遠野地区いきいき健康塾」の実施

常磐公民館を会場に、約15名の塾生を対象に、専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士等）による全12回の講義を実施。

②「常磐地区買い物お手伝い号」の実施

令和6年9月より、事前登録された高齢者を対象に、週2回程度、自宅から利用店舗（マルトSC湯本店）までの送迎を行う。

各介護保険事業所が運行している福祉車両の空き時間を活用している。

3.今後の目指す姿

【目指す姿】

①介護予防について

健康寿命の延伸と要介護状態にならないことを目的に、介護予防の知識を習得し、日常生活に生かす。

また、外出する機会を確保することで、社会参加を促し、他者と交流する機会を作る。

②常磐地区買い物お手伝い号

「自分で商品を選んで、買い物ができること」、「お店で買い物をする」を継続することで、生活を維持するとともに、広い店内を楽しみながら歩いたり、商品を手に取ることは運動になるため介護予防的効果が認められる。また、たくさんの商品から自分の欲しい物、必要な物を選び、支払いをすることは、認知症予防にもなる。

4.令和7年度の取り組み

【令和7年度の取り組み（予定）】

①常磐・遠野地区いきいき健康塾について

次年度の開催について、常磐地区、遠野地区（上遠野地区と入遠野地区の2か所開催で調整中）のそれぞれで開催することを予定している。

②常磐地区買い物お手伝い号

次年度も継続して実施するよう調整中。

③地域共生社会をテーマとした地域イベントの開催を検討中。

常磐・遠野地区中地域ケア会議の取り組み

○買い物支援



○常磐・遠野いきいき健康塾



内郷・好間・三和 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

・高齢化率が市全体と比較して高く、年々上昇している。介護予防の推進や意識醸成が課題である。

・単身高齢者や認知症高齢者の増加が見込まれており、様々な主体による生活支援体制の充実・強化、地域活動に参加する担い手の確保が必要となっている。

2.これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

・フレイル予防の啓発を広めるため、地区独自の啓発チラシ・ポスターを作成、管内関係機関に配布した。

・「ひとり暮らし高齢者、認知症の方への生活支援体制の整備」について検討。作業部会を立ち上げ、地区内のスーパーを拠点とした買い物支援の仕組みづくりについて検討を行った。

3.今後の目指す姿

【目指す姿】

○1人ひとりが健康でいきいきと暮らし活躍できるまち

地域住民が介護予防や健康づくりに主体的に取り組めるよう、フレイル予防の普及啓発や社会参加の機会づくりをすすめる。

○住み慣れた場所で安心して生活が続けられるまち

単身高齢者や認知症高齢者の増が見込まれることから、地域の資源や、住民の力を生かしながら、多様な生活支援の充実を図る取組の実践をすすめる。

4.令和7年度の取組み

【令和7年度の取組み(予定)】

(取組の方向性)

住民、関係機関との協働による生活支援の仕組みづくり

「困りごと」「実現したいこと」と地域資源をマッチングし、新たなつながりや支え合いの仕組みをつくる。

(取組の内容)

●スーパーを拠点とした買い物支援
ボランティアを活用しながら、商品選びや支払いなどサポートを必要とする方の買い物付添の支援を行う。地域ボランティアの確保・養成をすすめる。

●イートインスペースでの
交流サロンの運営

買い物中の休憩や、住民同士の交流、専門職への相談や相互交流の場など、店内イートインスペースをサロンとして活用する。

内郷・好間・三和 地区中地域ケア会議の取り組み

《フレイル予防啓発チラシ》

**みんなでチャレンジ！
フレイル予防**

R4～5 三和町・合戸
フレイル予防チャレンジ
開催レポート

フレイル（虚弱）とは、年齢とともに心身の活力が低下した状態のこと。何歳になっても、ちょっとした工夫で予防・改善することができます！フレイルを正しく理解し、予防をはじめるきっかけを提供するため、令和4～5年度、三和町・合戸地区にて“フレイル予防チャレンジ”を開催しました。地域のみなさまの健康づくりを後押しするため、本イベントに参加した方の声を紹介いたします！

早めの気づきで健康長寿を目指そう！

気づく
年をとったら粗食は大間違い、タンパク質や栄養バランスを意識するようになりました
家族の健康もサポートしたい
元気なときから自分の状態を知ることが大事

はじめる
“ながら運動”を無理なく続けます
続けていると自分の身体に必ずかえってくるね

つづける
仲間と一緒にならより楽しく、心も体もより元気に！
家事の合間にかかと上げ 歯磨きしながら片足立ち
仲間と一緒ならより楽しく、心も体もより元気に！
行き会って会話をしたり、挨拶したり、横のつながりがとても大事
仲間がいるとお互い刺激になるね

つながる

人や地域とのつながりが豊かなほど健康寿命が長いことがわかっています。個人の心がけや行動も大事ですが、“人や地域とのつながりがより効果を高める！”というのが取組に参加したみなさんから寄せられた声。学ぶ、動く、つながる機会を作り、健康長寿を目指して、みんなでフレイル予防に取り組みましょう！

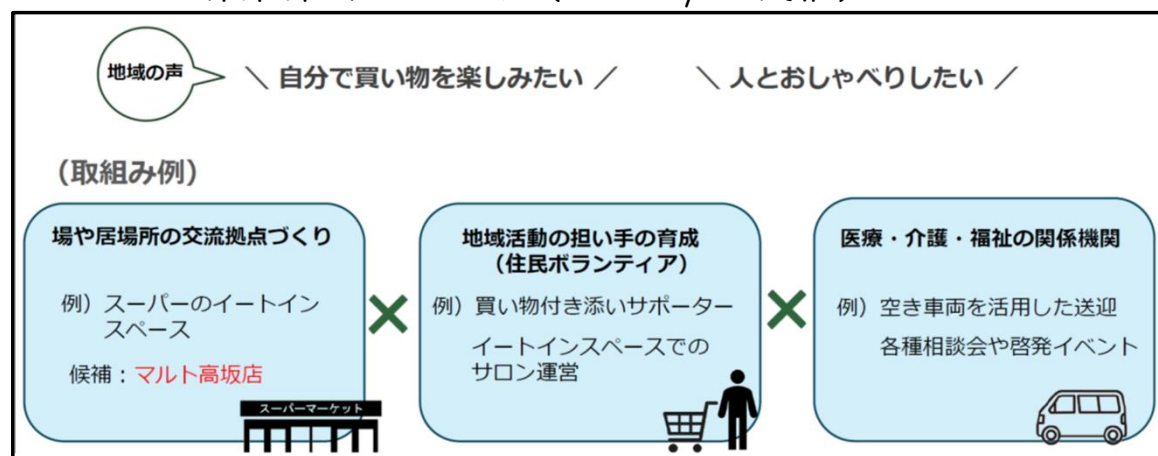
いわき市ホームページでもフレイル予防に関する情報を掲載しています。ぜひご覧ください！

発行
内郷・好間・三和地区
中地域ケア会議
☎ 0246-27-8691

《第1回中地域ケア会議（R6.10/3開催）》



《作業部会立ち上げ（R6.11/25開催）》



作業部会にて、具体的な取り組み案について検討。活動拠点を見込むマルト高坂店の店員12名に対し、認知症サポーター養成講座を実施。（R7.1月）

管内医療機関や薬局、公民館、スーパー等に配布。

四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議の取り組み

1. 地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

- ・地域の担い手が高齢化しており、後継者となる人材の育成・確保が急務である
- ・認知症への理解が不足している
- ・公共交通機関の空白地帯が拡大し、高齢者の移動手段が乏しい

2. これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

- ・専門職による介護予防教室等の開催（医療介護学校よつくら塾）
- ・認知症の人と家族の一体的支援プログラムとして、ミーティングセンター「寄るべ」の定例開催
- ・小中学生向け認知症教室の開催
- ・企業向けに認知症サポーター養成講座の開催
- ・サロンや住民支え合い活動団体、よつくら塾卒塾生を対象としたボランティア育成講座の開催
- ・定額タクシー実証運行への参加呼びかけ

3. 今後の目指す姿

【目指す姿】

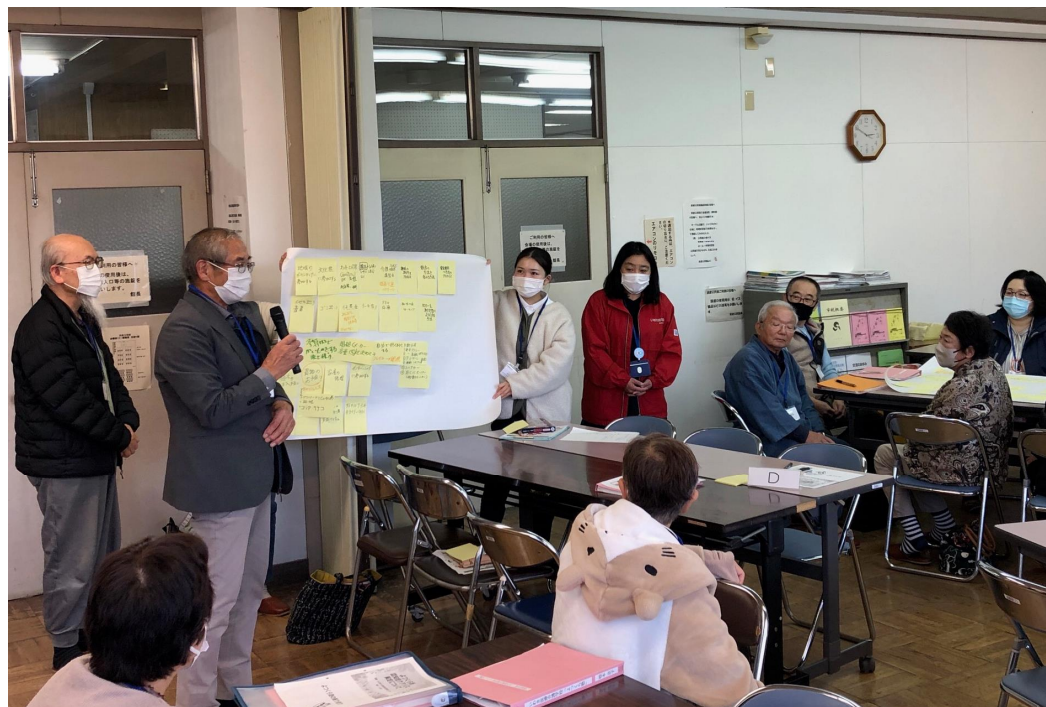
- ◎認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現
- ・地域で活躍できる介護予防のリーダーやボランティアの育成・確保
- ・認知症の発症から病気の進行に応じて本人やその家族が、いつ、どこで、どのような医療・介護その他サービスを利用すればよいか分かる「よつくら版認知症ケアパス」の策定
- ・スローショッピングができるまちづくり
- ・自家用車を運転しなくとも高齢者が生活可能なライフスタイルの実現

4. 令和7年度の取り組み

【令和7年度の取り組み（予定）】

- ・高齢者の生きがいづくりと介護予防を目的とした「うしお大学×よつくら塾」の開催（四倉公民館との共催）
- ・よつくら版認知症ケアパス策定会議の開催
- ・ミーティングセンター「寄るべ」の定例開催
- ・小中学生向け認知症教室の開催
- ・ボランティア育成講座の開催
- ・スローショッピングの実施に向けた検討
- ・交通手段や買い物手段の確保に向けた各種取り組みの情報提供

四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議の取り組み



医療介護学校よつくら塾
(フレイル対策についてグループ発表の様子)



ボランティア育成講座
(社会資源のマップづくり)

小川・川前地区中地域ケア会議の取り組み

1. 地区の背景・抱える課題

【背景・課題】

・中山間地域であり、高齢化の急速な進行や若年層の地区外への流出により、独居高齢者や高齢者のみ世帯が増加傾向にある。今後、家族や地域コミュニティが果たしてきた相互扶助の機能が弱まることが危惧される。

・参加者の固定化や担い手不足による地域活動の停滞や、8050世帯等、地域から孤立する世帯が目立ってきている。

2. これまでの取り組み

【これまでの取り組み】

・住民主体の活動の支援と普及啓発
地域活動の拠点となる「つどいの場」「高齢者見守り隊」「第3層協議体」等の活動を支援し、空白地域への普及啓発に取り組んでいる。

3. 今後の目指す姿

【目指す姿】

○住民主体の活動により、地域のなかに多世代にわたるつながりが生まれる。

○住民主体の活動により、地域のつながりを維持し、孤立を防止する。

○生活の中に溶け込んだ地域拠点をベースに、様々な地域活動への参加に発展している。

4. 令和7年度の取り組み

【令和7年度の取り組み(予定)】

●小川寺子屋の見直し

一般募集だけでなく、各団体の中心的メンバーに参加してもらい、介護予防等のほか、楽しんで参加できるプログラムを実施する。

中心的メンバーから他メンバーへの浸透や、小川寺子屋で得たノウハウを活用して地域団体の活動の活性化や、プログラムの魅力アップによる新たな参加者の獲得も狙う。

●孤立防止のために地域でできる取り組みについて継続して検討する

令和6年度の小地域ケア会議や中地域ケア会議等において、「地域での孤立化を防ぐ」という視点で意見交換を実施した。「孤立・孤独防止のために地域で何ができるのか」について、やりたいことや活用できそうな社会資源についてアイデア出しを行った。



今後は、思いを形にする方法を具体的に協議し、できるところから取り組んでいく。

小川・川前地区中地域ケア会議の取り組み



令和6年度第1回中地域ケア会議の様子

【意見交換】孤立防止のために地域でできること

★やってみたいこと、あったらいいな（抜粋）

居場所づくり	近所であつまれる場所
	居酒屋、食堂
	働ける食堂
	ミニオレンジカフェ
啓発・支援活動	相談所
	寸劇
	認知症の方との交流
	介護者の交流会
PR、広報活動	子どもとの交流
	学校への出前講座
イベント	野菜づくり
	お茶会
	ガーデニング

(3)福祉介護人材確保に向けた 検討部会について

福祉介護人材確保に向けた検討部会（報告）

【開催概要】

I 第1回部会

- (1) 日時 令和6年9月30日（月）18:30～20:00
- (2) 場所 いわき市役所 第8会議室
- (3) 内容 各事業者の取組み内容を共有し、意見交換を行いました。
主な内容は次のとおりです。

既に取り組んでいること

- 補助金を活用した福祉フェス開催
- セミナーや若者交流会
- 事業所を退職しても福祉業界に残るように心がけている
- 事業所見学、体験学習、ボランティア体験
- ICTを活用した業務効率化
- 介護補助員の活用（介護業務の細分化）
- 勤務評価を給与に反映する仕組み
- 事業所との社会的役割を自ら設定
- ➡若者がステップアップする上で必要な経験する場
- ➡高齢者の最後の就職先としての職場 など

人材確保に必要なこと

生活の中で身近に福祉を感じられ、福祉が特別なことでないという意識付け、仕掛けを作る必要がある
➡介護に触れる機会を増やす取組み

分かりやすい情報発信

数値目標の設定

令和6年9月30日
18:30 ~ 20:00

「福祉介護人材確保に向けた検討部会」

すでに取り組んでいること

- 補助金と活用し、福祉フェス開催
- セミナーや若者交流会
(人材確保)
→今の若者が求めていることは??
・経営者の考えは?
・入ってきた人が辞めない仕組み(定着)
- 自事業所を辞めた後「もう福祉やらない」とならないように → 社会的責任
- 中高生、若い世代に「介護悪くない」と思ってもらえるような取り組み → 体験学習

魅力の発信

- 若い人に興味を持ってもらう
サブボランティアで高齢者との交流 → 介護に興味をもってくれた
- 入口は「内書」だったりすることもある
けど、体験に気持ち変わり...
- キャリア指導推進校(福祉コース)
・特色選抜(高齢介護) R5年: 2名
R6年: 1名
(義務教育段階から...
体験に基づいて...
学生の気にならなく...
・給食・夜勤・転勤・イオナ
・どういう会社なのか...

早い内に興味をもてた、動機づけがある

- 高1の時には既に介護体験している
→ 介護職に就く職として
→ 2~3年生で興味もつのは少ないかも
- ICT活用で業務効率化(人の負担↓)
- 運営サポート(人員基準内) 体に触れない業務
→ 興味もつかも (実習外も)

阻害要因 こだわら... (笑) ... (笑)

- 金銭面、処遇改善のため人員基準の徹底
- 働く人にはお金倍 (倍)
- 人の力は必要、虐待等の権利侵害を防ぐ
- サービスの質の確保はマスト

つづき...

- 人員評価を給与に反映
今年度採用の職員にも活用している。
(行政に...補助金とかも周知してほしい)
- 採用時に言う区間と、体験に
基づいたものでなく、自身の経験(友人に誘われて)
から選んでいる人もいる → そういふ経験があるという理由
必要が...今の若者の考えは...
インクルーシブなところ...
教育
- 外国人雇用(インドネシア4名)
コミュニケーション、食事の問題
給与は魅力的

何に注力する、何をやる?

- 介護に触れる機会を増やす取り組み
- 補助金を分かりやすく(行政からの周知方法等)
- 定着支援のセミナー、確保だけでなく
- より具体的な話し合い、数値目標を把握して
先の目標を設定する → 短・中・長期の目標
(年間目標、増えなければならない、この時期に何人確保)

一回

- 年内にはもう1度(具体的な数値目標を)
- 会議の開催は「昼」
- 場所も検討中

どうする? 何する? (笑)

- 社会の中に普通に障が者、高齢者がいるという考え方。
「特別なこと」ではなく、意識付けが大切
(家族もする、身にも介と要する人はい)
- 仕掛け作る必要がある

2 第2回部会

- (1) 日時 令和7年2月6日(木) 14:00~15:30
- (2) 場所 いわき産業創造館 企画展示ホールB
- (3) 内容 3班に分かれて、介護人材確保定着に向けたアイデア出しを行った。

主な内容については、次のとおり。

今後、出された意見を集約し、必要な取り組みを整理していく。

確保に向けた取り組み

小中高校生、高年齢者、
障がい者、医療/福祉職
経験者

- 出前講座
- 職場見学会
- ACP研修
- ボランティアポイント
- 資格取得支援
- 奨学金サポート
- 短時間労働、副業

外国人

- 中小事業者が活用
できる仕組み
- 生活/文化支援
- 住居費/交通費/食
費補助

定着/育成に向けた取り組み

経営者、管理職、中堅職員、新人職員

- セミナー拡充
- 資格取得支援
- 業務効率化
- ICT研修、体験
- 定年廃止、週休3日制
- 休めるシフト体制
- ハラスメント対策、メンタルケア
- 短時間労働、副業
- 人員基準緩和
- サービス範囲の縮小
- 若手職員が人材採用に関わ
る仕組み
- 職員同士のコミュニティ
- 法人連絡会議
- 事業所間での職員のシェア/人
事交流
- 複数事業所への送迎を請負う
サービス

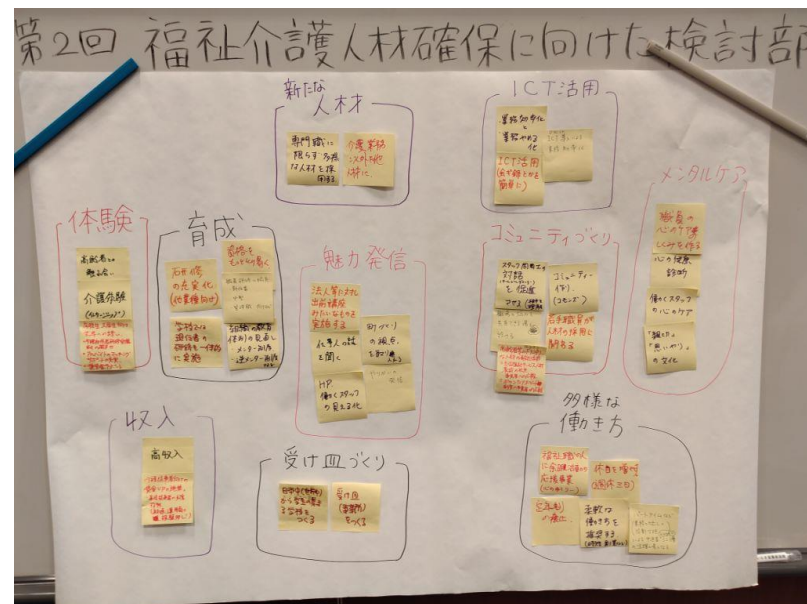
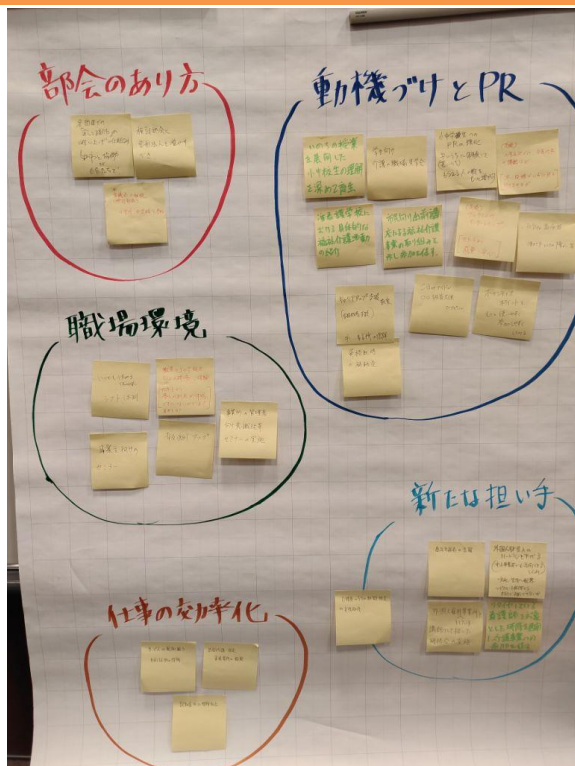
人材確保、定着に向けた共通の取り組み

情報発信

- HPでやりがい、働くスタッフの見える化
- 冊子作成
- ご当地アイドル、応援大使でアピール
- メタバース(VRで介護体験)
- 若いうちからACP研修
- 11/11(介護の日)に独自イベント
- FMいわきで定例番組
- 民間企業との交流
- YOUTUBEでミニ講座をUP

賃金向上

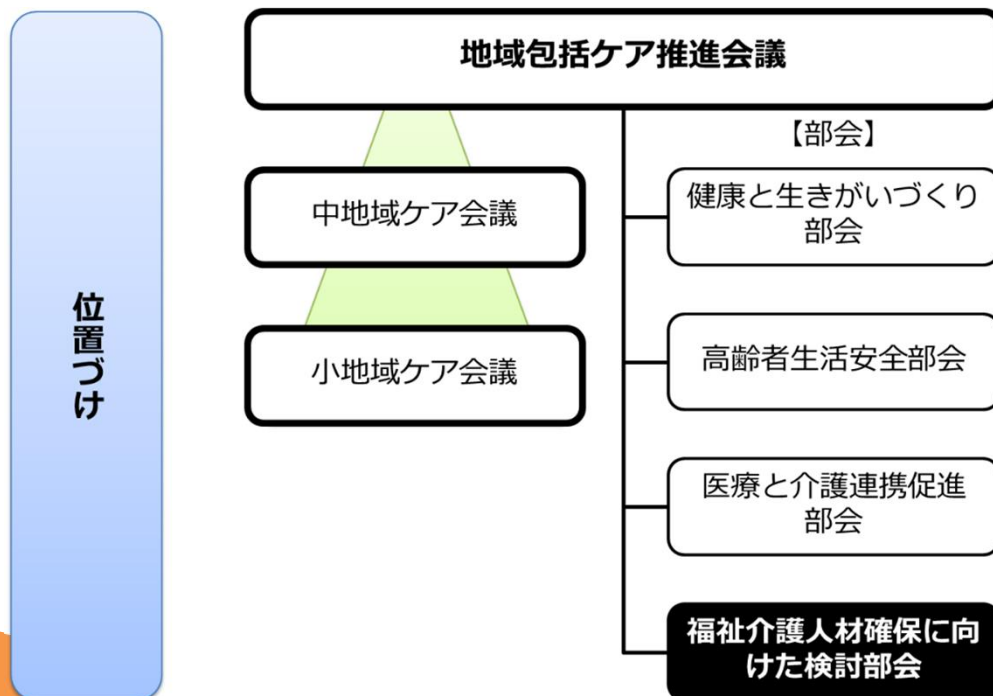
- 職員への直接補助
- 待遇向上、賃金引上げ
- 処遇改善加算取得推進



【参考】

地域包括ケア推進会議における位置づけ及び 部会設置要綱

福祉介護人材確保に向けた検討部会設置要綱



1 目的

福祉介護人材の確保・育成・定着に向けた対策について検討を行うことを目的として、いわき市地域包括ケア推進会議の専門部会として、福祉介護人材確保に向けた検討部会（以下、「部会」という。）を設置する。

2 検討事項

部会は、次の事項について検討する。

- (1) 福祉介護人材確保等に係る情報収集、分析に関すること。
- (2) 福祉介護人材確保等に係る施策の検討、実施に関すること。
- (3) 福祉介護人材確保等に係る市と福祉介護事業者との連携に関すること。
- (4) その他、必要な事項に関すること。

3 構成

部会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 地域包括ケア推進会議委員
- (2) 障がい福祉事業者
- (3) 介護保険事業者
- (4) 教育機関
- (5) いわき市職員
- (6) その他、関係機関団体の職員

4 委員任期

- (1) 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- (2) 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

5 会議

- (1) 部会は、介護保険課長が招集し座長となる。
- (2) 介護保険課長が必要と認めたときは、部会に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

6 庶務

部会の庶務は、介護保険課において処理する。

7 その他

この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、介護保険課長が別に定める。

附 則

- (1) この要綱は、令和6年9月30日から施行する。
- (2) 初年度の委員任期は、4の規定にかかわらず、令和7年5月31日までとする。

ご清聴ありがとうございました